【公報種別】特許法第１７条の２の規定による補正の掲載
【部門区分】第１部門第２区分
【発行日】平成21年12月17日(2009.12.17)

【公開番号】特開2006-187629(P2006-187629A)
【公開日】平成18年7月20日(2006.7.20)
【年通号数】公開・登録公報2006-028
【出願番号】特願2006-50(P2006-50)
【国際特許分類】
Ａ６１Ｍ　5/142　(2006.01)
Ａ６１Ｍ　5/20　(2006.01)
Ａ６１Ｍ　5/00　(2006.01)
【ＦＩ】
Ａ６１Ｍ　5/14　４８１
Ａ６１Ｍ　5/20
Ａ６１Ｍ　5/00　３２０
Ａ６１Ｍ　5/00　３３０

【誤訳訂正書】
【提出日】平成21年10月23日(2009.10.23)
【誤訳訂正１】
【訂正対象書類名】特許請求の範囲
【訂正対象項目名】請求項１
【訂正方法】変更
【訂正の内容】
【請求項１】
注射装置において、該注射装置の少なくとも１つの設定又は作用過程を検出する少なくとも１つのセンサ（１０２；１１１、１１２、１１３）と、該センサ（１０２；１１１、１１２、１１３）と接続され且つ、１つ以上のセンサ信号に基づいて、所定の又は設定された作用寿命の開始及び経過時間を判断する電子回路（１０４）と、該回路（１０４）と接続され且つ、該回路（１０４）により検出された注射装置の作用寿命の終了時をユーザに表示する信号を出力することができる電子的、光学的及び／又は聴覚的出力装置（１０３、１１０）とを備える、注射装置。
【誤訳訂正２】
【訂正対象書類名】明細書
【訂正対象項目名】００１１
【訂正方法】変更
【訂正の内容】
【００１１】
例えば、タイマーと共に、データ記憶装置を注射装置内に設けることもでき、この記憶装置には、例えば、注射装置が最初に作用したとき、投薬量の設定過程の回数及び／又は時間、及び／又は送り出し過程の回数及び／又は時間、及び／又はアンプルの交換回数及び／又は時間に関するデータのような、注射装置にて行った設定又は作用過程に関するデータを記憶させることができる。注射装置内に設けられたプロセッサ又はコントローラは、例えば、記憶装置内に記憶された注射装置の使用に関するデータを、例えば、製造メーカが一定状態にて予め決定し又は設定した注射装置の可能な使用に関する最大限界値と比較し、例えば、アンプルの交換又は送り出し過程の許容可能な最高回数に達し又はそれを超えたとき、信号を出力し、上述したように警報信号を発生させることができ、このことは、ユーザにアンプルの交換又は送り出し過程の最大回数に達し又はそれを超えたことを表示する。注射装置の作用寿命の終わりを確認するため、注射装置の作用又は作動パラメ

ータを使用するならば、その後、使用寿命の時間期間は、ユーザが注射装置を使用する方法に依存して変化するであろう。